

# 留学前報告書

筑波大学 五十嵐 歩美

## 1 自己紹介

こんにちは。筑波大学の五十嵐歩美と申します。私は、学部・修士を筑波大学で過ごし、そのうちの一年間はカリフォルニア大学サンディエゴ校経済学部で交換留学の機会を得ました。この秋から、オックスフォード大学コンピューターサイエンス学科の博士課程で勉強する予定です。

## 2 大学院留学を志したきっかけ

今思えば交換留学を終えたときから、漠然ですが憧れとして海外の大学院に留学したいと思っていました。帰国後その思いは、まだ具体的な研究計画を描けず、研究経験の浅い自分は日本でしっかり基礎を固めた方がよいのではないかと考え、踏みとどまりました。そこで、筑波の修士課程に進み、初めての学会発表、論文刊行などを経て、次第に日本の博士課程進学も魅力的な選択肢に映りました。私が所属している日本の学会の、自由闊達な雰囲気心地良かったからです。一方、留学の夢も諦めきれずにいました。海外で長期間研究できるのは、二十代の「今」しかないのではという思いが強くなりました。

そんな私が大学院留学を決意したのは、修士一年の冬でした。きっかけは、指導教員の先生の一言です。退官を三年後に控えておられた先生は、私に「世界で活躍する若くて元気な先生のところに行きなさい」と背中を押してくれました。この言葉のおかげで、ようやく大学院留学を決意することができました。

## 3 出願先選び ～ Part 1 ～

先生の一言から早速出願先選びに臨みましたが、決めるまでには多くの時間を要しました。私は、数理最適化の知識をもとに、ゲーム理論の一分野である協力ゲーム理論の研究をしてきました。数理最適化とは、社会に現われる様々な問題を数式によってモデル化し、それを解くための効率的なアルゴリズムを考える分野です。

留学先選定の際に一番に悩んだのは、どの分野を土台にこの先の研究を続けていこうかということでした。最適化理論の面白さを存分に学んだ修士の一年間でしたが、同時に私の研究の対象としているゲーム理論を体系的に勉強する必要があるのではないかと考えていました。そこで、「百聞は一見に如かず」と、修士二年目の一年間はできるだけ多くの学会に足を運び、自分にとって適切な道は何かと模索しました。その一つに、2013年6月にイギリスのヨーク大学にて行われたゲーム理論の学会がありました。ほとんど独学で協力ゲーム理論を学んできた私にとっては、そこでの体験はとても新鮮で、それまでのモヤモヤがすっきりし目から鱗が落ちるような気持ちでした。このヨークでの体験を機に、本格的にアメリカの経済学大学院を目指すようになりました。

## 4 出願準備

出願先選びと平行して、奨学金応募、TOEFL など試験の準備も夏頃から進め始めました。大まかなスケジュールは以下の通りです。

- 2013 年 8 月 ～ 10 月：日本の海外留学奨学金への申請書類作成・応募、TOEFL・GRE 受験
- 2013 年 11 月：奨学金の面接
- 2013 年 12 月 ～ 2014 年 1 月：修士論文提出・発表、大学院出願

10 月から 11 月は留学準備の中で一番苦しかった時期でした。修士論文の仕上げ、英語の試験、奨学金の面接が重なり、とにかく時間がありませんでした。今思えば、留学準備のスタートが遅かったと思います。特に英語の試験は早めに対策しないと、精神的に辛いことを痛感しました。幸運にも、11 月に船井の奨学生に選ばれました。そのときは、心から嬉しかったです。

## 5 出願先選び ～ Part 2 ～

2013 年 11 月下旬に再び転機が訪れました。たまたま日本の国際学会でイギリスの大学の先生とお話をする機会があり、イギリスには私の研究分野と近い研究者が多いことがわかりました。中でも、以前感銘を受けたことのある Algorithmic Game Theory の教科書の著者がオックスフォード大学にいることを知りました。「オックスフォード」というと、当初少し畏れ多い感じがしていたのですが、その先生にコンタクトを取ったところ大変好意的な返事があり、オックスフォードも急遽受験することにしました。

## 6 選考結果

オックスフォードから 1 月下旬にスカイプ面接の連絡がありました。すぐに丸一週間は、あらゆる質問を想定してみっちり面接特訓に励みました。実際の面接は 20 分程度で終わり、予想より短くて拍子抜けでした。面接 30 分後には、合格確実のメールをいただくことができました。他の経済学大学院に関しては、ほとんどが不合格でした。英語の試験対策の準備が足らなかったことが主な要因に感じます。それに対して、オックスフォードの出願が円滑に進んだ理由は、やはり研究分野の近さだと思います。先方が自分の研究分野の専門家なので、かなり具体的に研究計画を書きました。それが面接においても有利に働いたと感じています。

## 7 おわりに

こうして振り返ってみると、運もありますが、学会などで、世界の研究者と直接交流し出会うチャンスがあったことが今日の合格の決め手になったように思います。また長丁場の留学準備において諦めずに頑張るためにも、周りの方々の理解・サポートは欠かせませんでした。